

2024年7月8日

三菱UFJ信託銀行株式会社

勘定系システムのモダナイゼーションに向けた取り組み開始について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 長島 巖、以下「三菱UFJ信託銀行」）は、昨今のデジタル化加速など金融機関を取り巻く環境の急速な変化に対応できる柔軟性を備えたシステムを実現するため、勘定系システムのモダナイゼーションに向けた取り組みを開始いたしました。

1. 背景と目的

経済産業省が発表したDXレポートでは、「2025年の崖」として肥大化・複雑化した既存システムに対して事業環境の変化に対する柔軟性の欠如や技術の老朽化による安定的なシステム運用が課題として取り上げられ、既存システムのモダナイゼーションの必要性が提言されています。

三菱UFJ信託銀行は、『「安心・豊かな社会」を創り出す信託銀行』をめざす姿に掲げ、基幹システムである勘定系システムの改革を重要な経営課題と位置付け、モダナイゼーションに向けた取り組みを推進してまいります。

本取り組みを通じて、既存システムの複雑性軽減や採用技術の刷新を図り、安定的な金融サービスの維持や開発生産性の向上による新規投資余力の創出、事業環境の変化への柔軟な対応を目指します。同時に、信託銀行の基幹業務やシステムに精通した人財の育成を行うことで、当社の将来ビジネスを支える人財基盤を拡充します。

2. モダナイゼーション概要

モダナイゼーションの概要は以下の通りとなります。

対応方針		対応概要
A	疎結合化	システム内で密接に関わっていた各業務機能を業務領域ごとに分割し、システムの構成要素間の依存関係を削減
B	機能スリム化	長年に及び改修を繰り返し肥大化・複雑化した機能の整理によるシステムサイズの適正化
C	基盤オープン化	適材適所でメインフレームとオープン系基盤を選択し、従来の信頼性を確保しつつ、迅速性・柔軟性の高いハイブリッド基盤へ移行。合わせてメインフレーム特有言語の汎用言語への変換を実施

3. 今後について

本取り組みは機能ごとの段階的な分割移行により、今後長期間に及ぶ活動となります。三菱UFJ信託銀行は長期間に亘り安定的な対応リソースの確保を行うため、アクセンチュア株式会社（代表取締役社長：江川 昌史、以下「アクセンチュア」）との長期パートナー契約を締結いたしました。アクセンチュアは本取り組みにおける移行計画の策定から実行における支援、および人財育成支援などを担います。三菱UFJ信託銀行はこれまで多様なビジネスパートナーと協働して勘定系システムの安定的な開発・運用に努めてまいりました。今後につきましても、既存のビジネスパートナー及びアクセンチュアと協働して確実なシステムのモダナイゼーションを推進してまいります。

以上